

## 関西の活かしたい自然エリア

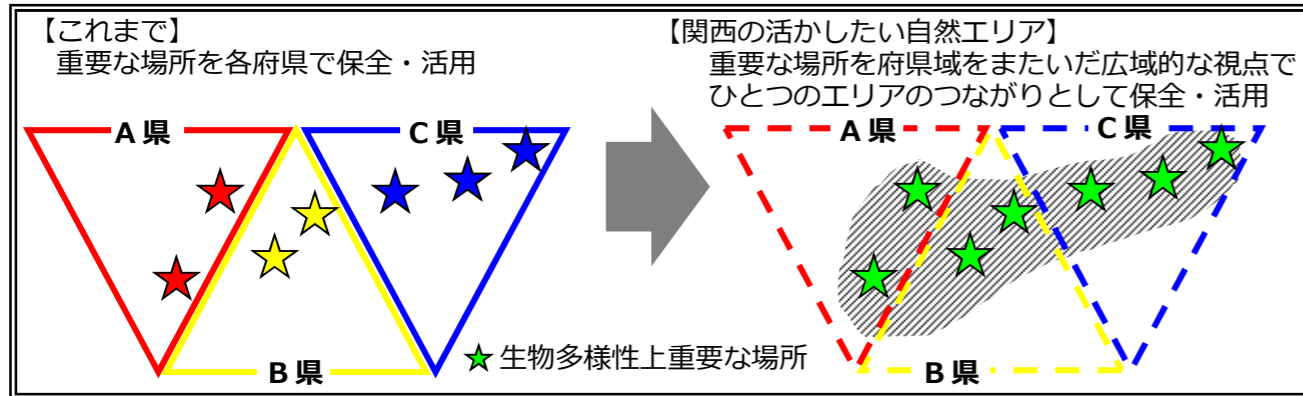
### はじめに

関西広域連合では、関西広域環境保全計画において、以下の3点から構成される「生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会についての将来像」を掲げています。

- ①自然の恵みを享受し、豊かな地域文化の中で人と自然が共生している。
- ②生物多様性と深く関わってきた地域独特の文化や景観が、世代を越えて受け継がれている。
- ③最上流部の森林から最下流部の海域に至るまでの、森・川・海のつながりを重視し、府県域を越えた広域で生物多様性が保全・確保されることで、生態系サービスが維持・向上され、関西全体の生態系が保全されている。

生態系サービスの維持・向上のための取り組みを「どこで」「どういったつながり」に注目して進めるべきかの方向性を示すため、保全が必要な、森・川・海のつながりに着目したひとまとまりの環境を『関西の活かしたい自然エリア』として選定しました。

### 【つながりの考えかた（イメージ）】



### エリア選定の進めかた（平成 26、27 年度）

#### 1.情報収集：生態系サービスの維持に必要な情報を以下の基準に沿って収集

- 基準 1：生物多様性保全上重要な地域  
 (例) 希少種の分布や希少な生態系の分布など
- 基準 2：伝統・文化・生業（なりわい）を支える地域  
 (例) 伝統的な農林水産業（棚田など）や暮らし（里地など）、観光資源など
- 基準 3：市民に親しまれてきた地域（景観）  
 (例) 各地の百景などに指定される風景など

#### 2.市民参加：市民に親しまれている場所の情報を収集

- ・市民向けアンケート「将来に残したい、これからも大切にしていきたいと考える自然や風景について」を実施（平成 26 年 12 月～平成 27 年 1 月）
- ・市民参加の取組の実施(平成 27 年度)（タンポポ調査・西日本 2010 の成果データの活用）

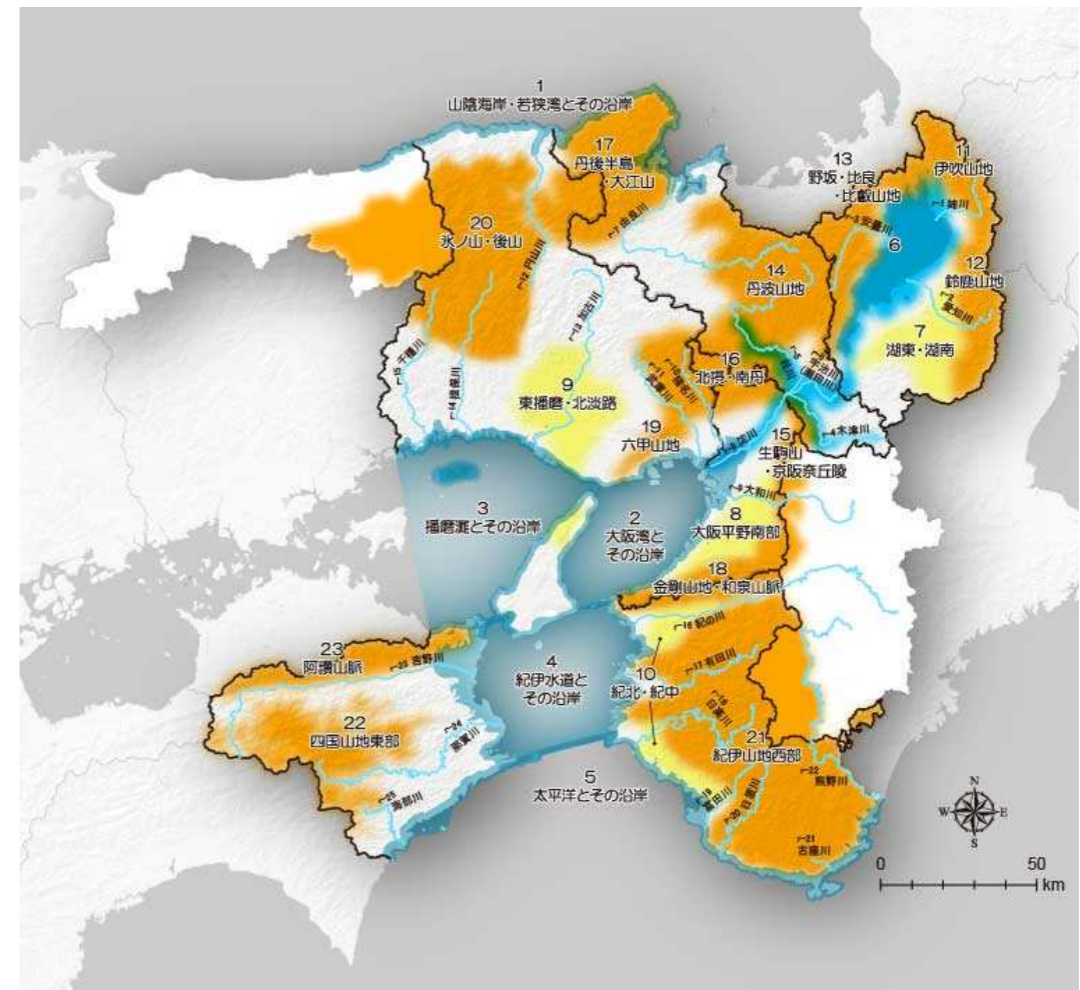
#### 3.専門家<sup>\*</sup>によるエリア選定：科学的な情報・知見に基づき、以下の視点でエリアを選定

- ① 基準 1～3 の拠点となる場所の分布状況（重要な地域が集まる地域を抽出）
- ② 空間としてのつながり（山地、丘陵、平野、沿岸、水系（河川）等の単位で抽出）

#### 4.行政担当者による協議：地域の状況（意向）や推進体制などを勘案して 23 地域を選定

<sup>\*</sup>博物館学芸員、学識経験者により構成される関西広域連合広域環境保全局生物多様性検討委員会

## 自然エリア



| 区分     | 番号 | エリア名称         |
|--------|----|---------------|
| 海域・沿岸域 | 1  | 山陰海岸・若狭湾とその沿岸 |
|        | 2  | 大阪湾とその沿岸      |
|        | 3  | 播磨灘とその沿岸      |
|        | 4  | 紀伊水道とその沿岸     |
|        | 5  | 太平洋とその沿岸      |
| 淡水域    | 6  | 琵琶湖・淀川水系      |
| 平野・丘陵域 | 7  | 湖東・湖南         |
|        | 8  | 大阪平野南部        |
|        | 9  | 東播磨・北淡路       |
|        | 10 | 紀北・紀中         |
| 山地域    | 11 | 伊吹山地          |
|        | 12 | 鈴鹿山脈          |
|        | 13 | 野坂・比良・比叡山地    |
|        | 14 | 丹波山地          |
|        | 15 | 生駒山地・京阪奈丘陵    |
|        | 16 | 北摂・南丹         |
|        | 17 | 丹後半島・大江山      |
|        | 18 | 金剛山地・和泉山脈     |
|        | 19 | 六甲山地          |
|        | 20 | 氷ノ山・後山        |
|        | 21 | 紀伊山地西部        |
|        | 22 | 四国山地東部        |
|        | 23 | 阿讃山脈          |